海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/08/06 ～2019/09/04)

１． 勉学の状況

本セメスターで私は計 4 つの授業を受講する予定ですが、現時点ではそのうち 3 つの授業が始まっています。ここではその 3 つの授業について書いていきます。

① History of Education

その名の通り、（主にヨーロッパの）教育の歴史を学ぶ授業です。授業形態は先生が授業を行うレクチャースタイルと学生のみで議論を行うディスカッションスタイルの 2 つに分かれています。ヨーロッパの教育史は、ヨーロッパ内の国同士の関係性や宗教、経済等さまざまな要因から形成されており、当たり前のことですが日本の教育史とは全く異なるため、多くのことを学んでいます。ただ、授業のスピードが早く９月にはファイナルレポートもあるため、何とか振り落とされないようより一層自学にも努めていきたいです。

② International Course in Drama Communication A

主にコミュニケーションについて心理学的な観点から学ぶ授業です。主な授業内容は、座学というよりも学生同士でさまざまなエクササイズを実践していき交流を深めるような活動が多く、楽しいです。紙を一切見ずにお互いの似顔絵を描くアクティビティや、目隠しをして声だけでパートナーを探すゲーム等さまざまなエクササイズがあり、すぐに他の留学生の人たちとも仲良くなれました。しかしもちろんそういった活動にも意味や目的がしっかりあるため、そういったことを考察していきながらもしっかりこれからも授業に意欲的に参加していくつもりです。

③ Nordic Culture

スウェーデン含む北欧の文化について学ぶ授業です。授業は主に座学によるレクチャースタイルですが、9 月と 11 月にそれぞれ数日間の泊まりを伴う遠征合宿のようなものがあるのがこの授業の特徴で、それが楽しみです。まだ始まったばかりですが、北欧でしか体験できない文化をたくさん吸収していきたいです。

上記 3 つの授業に加え、来週からはスウェーデン語の授業も始まるので楽しみです。一方で、上記 3 つの授業すべて、毎週何らかの宿題が課され、さらにその量もとても多いため、最近はほぼ毎日授業外の時間は図書館に篭ってひたすら宿題と向き合うという生活が続いています…。早くもっと効率よく宿題をこなせるようになりたいと強く思います。

２． 生活の状況

私は８月６日に日本を発ちリンショーピンに着きましたが、一番最初のオリエンテーションが始まるまでに約１週間以上の猶予があったので、主にリンショーピン探索や友達作りに励んでいました。リンショーピン内はバスが通っており大学やダウンタウンまではバスで楽に行けますが、日本のように時間通りにきっちりバスが来る確率はとても高いとは言えず、加えて毎回お金がかかってしまいます。そのため私はリンショーピンに着いた３日後にさっそく中古の自転車を購入しました。ちなみに後々の大学のオリエンテーションでも「リンショーピンで暮らすにはまず自転車を」と言われるくらいにリンショーピンでは自転車が重要です。自転車があれば大学までは５分程で、ダウンタウンにも 10 分程で行けてしまうのでとても便利です。

寮と大学のすぐ周りには森があり、多くの人がランニングやサイクリングを楽しんでいます。また、野生のリスやウサギ、ハリネズミ等もよく見られるくらいに自然が豊かです。一方で、森からほど遠くない場所に大きなショッピングモールや商店がたくさんあるダウンタウンがあり、よくフェスティバルのようなイベントも開かれています。このように自然と文明を同時に楽しめる環境が寮と大学のすぐ近くにあるというのはとても嬉しいです。

また、その約１週間以上の猶予の間にリンショーピン大学の学生団体が開くさまざまな留学生交流イベントにできるだけ多く参加したため、一緒に夕飯を作って食べたりお買い物に行ったりフェスティバルに参加する留学生の友達もできました。８月半ばごろからは授業が始まり急激に忙しくなりましたが、それでもそういった友達との交流をより深めていき、勉学と両立していきたいです。ちなみに、授業が始まりはしたものの、火災報知器が作動して急遽学生全員帰宅させられたり、大学に脅迫状のようなものが届き（結局はイタズラでしたが）急遽キャンパスが封鎖されたり、先生がディスカッションのために予約していた部屋がダブルブッキングで急遽使えなくなったりと、ハプニングがよく起こったりもしています。

中古の自転車とダウンタウン近くの街並み

スウェーデン伝統のゲームの体験イベント

海外派遣留学プログラム報告書

（報告期間：2019/09/05 ～ 2020/01/03 ）

１．勉学の状況

12 月の中旬ごろに今セメスターの全ての授業が終了しました。前回 9 月に作成した報告書に合わせて、各授業の内容と現状を少しずつですが紹介していきます。

① History of Education

この授業はパートタイム、要するに短期間のみの授業だったので 1 ヶ月ほどで授業自体は終了し、最後にスウェーデン含むヨーロッパの教育の歴史に関するいくつかの問いに授業で学んだことを活かして回答するという最終レポートが課されました。毎日図書館に篭りメモや文献を参考に一生懸命レポートを作成し無事提出しましたが最終成績は悪かったです…。一応不可ではなく合格ではあるので良かったですが少し悔しかったです。

いつもお世話になっている図書館。外観のデザインが素敵です。

② International Course in Drama Communication A

結論から言うと、この授業が一番印象に残っています。各授業ごとに体を使ったエクササイズやアクティビティをしていき、その中でクラスメートとどんどん仲良くなっていき友達をたくさん作ることができました。また、それ以外にも授業内で行うさまざまなテーマのディスカッションを通して各国のカルチャーを学べたことも良かったです。そして、なんと言っても、グループごとに分かれて約 2 週間で 20 分ほどの劇を作り実際にオーディエンスの前で発表する最終プレゼンテーションでは、普通の授業では得ることができないような達成感と満足感を得ることができました。以上のような活動を通してコミュニケーション、他文化、そして演劇について体験的に学ぶことができたこの授業はとても思い出に残っています。最終レポートはコミュニケーションやカルチャーに関するレポートに加え最終プレゼンテーションの振り返りも含まれており、自分は無事期限内に提出できる見込みです。

最終プレゼンテーションの様子。照明や音響、衣装等も本格的です。

③ Nordic Culture

この授業では座学だけでなく 2 種類の校外学習のようなものを通して北欧文化を体験し、学ぶことができました。1 回目の校外学習（countryside trip）ではスウェーデンの田舎に行き、湖上でのカヤックや豊かな森でのハイキングといったスウェーデンの美しい自然の中での余暇の過ごし方を体験できました。特に印象に残っているのは、夜に光一つ無い真っ暗闇の中にあるサウナで体を極限まで温めた後にすぐ横の極寒の湖に飛び込んだことです。スウェーデン含む北欧地域ではサウナが有名ですが、田舎だからこそ見ることができる満点の星空もとても美しく感動しました。2 回目の校外学習（city live-in seminar）では首都であるストックホルムに行きグループごとに分かれて博物館や歴史的名所、その他様々な場所を訪れて、ストックホルムのアイデンティ

ティとは何かを学びました。これらの学習を通してスウェーデンへの知見をより深めることができました。最終レポートも 12 月に無事提出できたため、現在は最終成績待ち

です。

カヤックの様子。予想以上にキツく腕がパンパンになりました。

ストックホルムにあるスカンセンという野外博物館。

④ Swedish for Foreign Students, Level A1

こちらは留学生用のスウェーデン語の授業です。毎週教科書を使いながらコ

ツコツと一からスウェーデン語を学んでいき、最終テストはスピーキングテストとライティングテストの 2 種類でした。毎週何かしら宿題が課されていたため自然と文法や単語は覚えていくことができ、ライティングテストは何とか自分一人で対策することができましたが、スピーキングテストは全く自信がなかったため、スウェーデン人の友達に協力してもらい毎日練習させてもらいました。結果、本番も何とか乗り越えることができて良かったです。現在は最終成績待ちです。次セメスターでさらに次のレベルのスウェーデン語の授業を取るつもりはないのでスウェーデン語を学ぶのはここでお終いで

すが、とても良い経験になり機会があれば独学でさらに学んでみたいです。

ライティングテスト当日の朝。寒かったです。

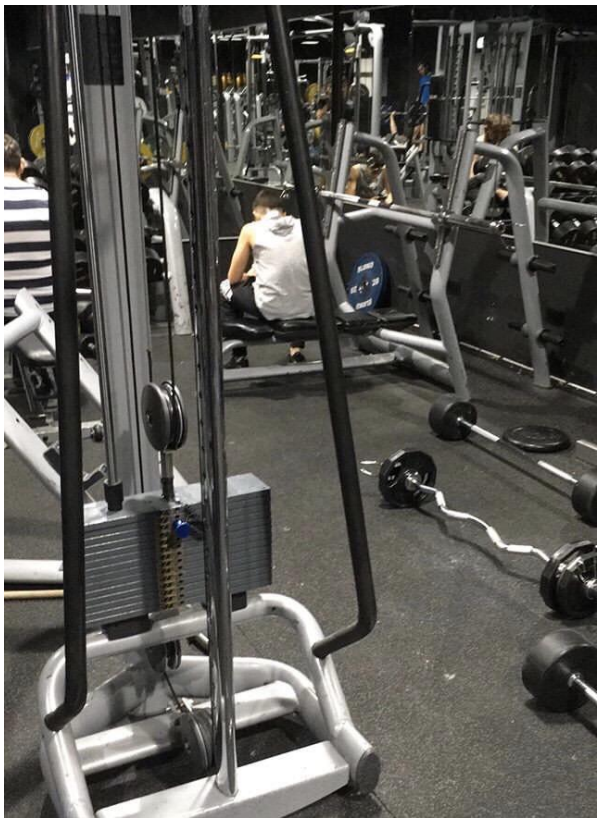
２．生活の状況

9 月終わり頃まで授業の課題にほぼ毎日追われてなかなか自分の時間を作ることができずにいましたが、10 月頃からはそんな生活にも慣れ、徐々に自分の時間を効率よく見つけて有意義な時間を過ごせるようになっていきました。いくら忙しいとはいっても授業は基本的に月火水木の週 4 日、しかも各曜日それぞれ 1 コマずつだけだったので、どうせなら空いてる時間をもっと有意義に過ごすべきだという発想に至り、朝ランニングを始めたりジムに通い始めたり、友達とパーティをしたり、週末は旅行に出かけたり…等、留学中にしかできないことをなるべくたくさんするようにしていきました。すると、毎日がとても楽しく充実したものになっていき、留学は勉強だけが全てじゃないんだ！（課題や試験からの現実逃避的要素も多少ありましたが…）と感じるようになっていきました。自分は大半の時間はいつも韓国人かフランス人の友達と過ごしていたような気がします。韓

国人とは国や文化が近いこともあり話が盛り上がりやすく、フランス人とは何故か個人的に気が合うことが多く、皆で一緒に夕飯を食べたりパーティしたり等よくしていました。12 月になると帰国してしまう人も多く、特に仲の良かったフランス人の男の子は最後に泣いてしまい、こちらまで貰い泣きしそうになってしまいました。

現在は冬休みで、約 2 週間後には新しいセメスターが始まり、また新たな留学生との出会いもあると思います。次セメスターは前セメスターに比べて専門科目である教育に関する授業が倍以上に増えるため、これまでとは気持ちを改めて再び学生生活に戻り、また、帰国後のこともしっかり考えて勉学に励みたいです。

スウェーデン伝統のクリスマスディナー。



近所のジム。学割が使えてお得です。

休みを利用して行ったパリ旅行。ヨーロッパ内の旅行は場合によっては飛行機往復チケットが

3000円以内で買えることもあるので驚きです。

海外派遣留学プログラム報告書

（報告期間：2020/01/04～2020/06/07 ）

本来なら 6 月初旬に帰国をする予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で 3 月下旬に帰国しました。本報告書では帰国後のオンライン授業なども含め書かせていただきます。

１．勉学の状況

① Introduction to Special Education in a Swedish Context

この授業はパートタイムの授業で、約 2 か月間のみの短期間の授業でした。内容はスウェーデンの特別支援教育についてで、教室で先生のレクチャーを聞き生徒同士でディスカッションを行ったり、実際に街に出て特別支援教育にまつわる機関や学校に訪問したりしました。スウェーデンではインクルーシブエジュケーションの概念が強く尊重されています。例えば、日本でいう特別支援学校や特別支援学級といったものはスウェーデンでは特殊で、基本的には特別支援が必要な児童生徒もそうでない生徒も皆が同じクラスにいて、一緒に学級生活を送っています。そのため教室内には、聴覚障害を持った児童生徒用のスピーカーが壁に設置されていたり、視覚障害を持った児童生徒のためにイラ

ストが用いられた掲示物や時間割表が見られました。これらは全て、スウェーデンの“A School for All”という概念によって、心身の障害はもちろん、性別、宗教、生い立ちなどの違いは全てあくまで個性であり人間は皆平等という考えのもと生まれていることを学びました。このように、日本とは異なる考え方のもと成り合っているスウェーデンでの特別支援について知ることはとても面白かったです。

（基礎学校のとある教室の写真）

② Teaching Practice

この授業はスウェーデンで行う教育実習で、リンショーピンの小学校（厳密には「基礎学校」という）に毎週行き授業の見学や実際に授業をするというとても貴重な経験をする事ができました。私が受け持ったのは 6 年生のクラスで、まず初めに担任の先生に挨拶をし、そこからスケジュール作成をし今後の計画を話し合いました。私は千葉大学では教育学部小学校英語教育選修に所属しているので本当は英語の授業をしたかったのですが、スウェーデンの基礎学校 6 年生（11～12 歳）の子供たちは既に不自由なく英語を使って生活できるくらいにはレベルが高く私よりも優れていたので、英語の授業をさせてもらえませんでした（笑）。そこで、先生の提案で特別に日本語の授業をさせていただくことになりました。クラスの子供たちは皆とてもフレンドリーで、特に男の子たちは日本のアニメが好きな子が多く、日本語の授業でも元気に楽しそうに授業を受けていたので嬉しかったです。スウェーデンの基礎学校は 1 クラスが最大でも 28 人と日本に比べて少なく、授業は各教科を各教科担任が教える教科担任制でした。このように日本の小学校とは異なる点が多かったです。また、授業外の時間には子供たちと外でフィールドホッケーを

したりソリ滑りやスケートをしたり、子供たちとその保護者によって企画されたスクールパーティにも参加しました。新型コロナウイルスによって急遽帰国することになり最後に皆にお別れが言えなかった事が今でも悔やまれますが、約 3 ヶ月の間、本当に楽しく勉強になる素晴らしい体験をする事ができました。

（子供たちは皆スケートが上手でした）

③ Outdoor Education Oriented towards Leisure Time and Outdoor Activities of Children and Youth

この授業は、スウェーデンで伝統的に行われている「野外教育」について実際に自分達も体験して学習するという授業でした。具体的には、大学近くの森で BBQ をしながら歌やダンスを踊ったり、スケートをしながら体育の授業のように楽しく体を動かしたりなど、授業回数は少なかったですが全て実際に野外で行う授業だったので楽しかったです。スウェーデンの広く雄大で綺麗な森を存分に体験する事ができるアクティビティがとても楽しかったです。しかし、新型コロナウイルスの影響で受講していた生徒の多くが途中で帰国してしまい、また、野外での活動もできなくなってしまったため授業は全てレポート形式になってしまいました。残念な事でしたが、留学生の皆と自然の中で体験的な学習ができたことは貴重な経験でした。

（森の中をハイキング）

２．生活の状況

リンショーピンの冬は毎年寒くて雪がよく降るらしいのですが、今年は例外で気温が暖かくあまり雪が降りませんでした。冬のスウェーデンを体験することは留学前から楽しみにしていただけに少し残念でした。けれど、１月の初め頃にスウェーデンの北に位置するラップランドというとても寒い地域に行きたくさん雪を見たり犬ぞり体験やトナカイと暮らすサーミ民族との交流をする事ができました。一番の目当てのオーロラは天候が悪く見れませんでしたが…。

（サーミ民族と暮らすトナカイ）

今セメスターの授業は前セメスターに比べて大学外の施設や学校に行って行うものが多かったので、前期よりは大学に行く回数は減りました。その分家で過ごす時間も多くなり、一緒に暮らしているコリドーメートの人達ともさらに仲良くなる事ができました。初めて皆で一緒にFIKA（コーヒーや紅茶でブレイクするスウェーデンの伝統文化）をした時はとても楽しかったです。

（雪の日の大学）

セメスターが変わっても前セメスター同様に韓国やフランス、アメリカからの新しい留学生たちとディナー会やパーティをよくしていました。また、日本の文化が好きだったり日本語を話す事ができるリンショーピン大学の学生であるスウェーデン人の人たちともよく一緒に遊んだ

りご飯を食べたりしていました。帰国した今でも留学中にできた友達とはよく連絡を取っており、本当に良い出会いができたと思います。また、日本から友達が春休みを利用して私に会いに来てくれる機会がいくつかあり、その友達と前期同様ヨーロッパ旅行もよくしていました。

（アムステルダムの風景）

しかし、ちょうど旅行を楽しんでいた 3 月ごろからヨーロッパでもコロナの影響が出てきました。隣国のデンマークやノルウェーが国境封鎖を行い、その他のヨーロッパの国々でも徐々に厳しいコロナ対策が行われるようになってきました。ヨーロッパの一部の国からの留学生は突然帰ってしまう人も現れ、アジアである韓国やシンガポールから来た留学生たちも突如一気に帰国してしまいました。あまりに突然の別れで寂しかったです。一方で、スウェーデンはというと、コロナ対策は「500 人以上が集まる集会の禁止」の 1 つだけで、それ以外は学校封鎖も外出の禁止も何も発令されませんでした。そんなこともあり正直帰る直前まで「スウェーデンは安全なのだろう」と楽観的な考えでいました。ところが、3 月 16 日に千葉大学留学支援課から帰国を要請する旨のメールが届き、一気に現実に戻されたような気がしました。とりあえず急遽日本に帰るためのチケットを探して買ったはいいものの便がキャンセルされる、他のチケットを買うもまたその便がキャンセルされる…という事が数回繰り返されかなり当時は焦っていました。そんな中でも残された他の留学生友達とお別れパーティをしつつもチケット探しに努め、ようやく 3 月 26 日に確実に帰れるチケットを見つけて買う事ができました。

帰国した後は 2 週間の自宅待機期間がありました。せっかくの 8 ヶ月ぶりの日本でしたがレストランに行くことも友達と会うこともできませんでした。帰ってきてからも Teaching Practice の授業は続いていて、Zoom を使ったオンライン授業で大学の先生と共に他の国の留学生とオンラインディスカッションをていました。本来ならあと 2 ヶ月ほどリンショーピンにいる予定でしたが新型コロナウイルスの影響に関しては仕方ないとも思うので、ぜひまた必ずリンショーピンには旅行でもう一度行きたいです。

3. 終わりに

私が留学することを決めてから帰国するまでの長い間、私を支えてくださった留学生支援課や英語教育選修の先生方、家族、友人の皆さん、本当にありがとうございました。皆様のおかげで約 8 ヶ月間の私の留学生活はとても有意義で充実したものとなりました。そして、この報告書が今後多くの留学を考えている多くの学生さんのお役に立てればと思います。

（ストックホルムからさようなら～）